

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム垂井だいわ福寿の杜 (第1ユニット)		
所在地	岐阜県不破郡垂井町栗原372-1		
自己評価作成日	平成23年9月22日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

設立6年目を迎え認知症実践者研修にも積極的に参加、現在は受講率70%を越え職員のプロ意識、チームワークも良くなり、利用者1人1人の認知ケアの考え方、仕事に対する意欲も上がり、利用者中心の介護をより充実させています。
毎月の行事、音楽療法、フラワーアレンジ、ボランティア参加のレクリエーションが昨年度よりレベルアップしてより一層笑顔のある、楽しい、生活を送れる施設になっています。
医療面では、岐阜県が取り組んでいる「岐阜県民歯、口腔の健康条例」にも賛同し、歯科医師の協力のもと、訪問歯科診療でブラッシングの施行及び、口腔内の異常の早期発見に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=2172400273&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とのつながりを大切に考えた地域密着型のホームである。利用者は、気候の良い日は近所に散歩や買い物に出かけ地域と交流し、事業所の夏祭りの際は近所にチラシを配り、地域の文化祭には作品を出し参加している。ホームの畑を近所の人にボランティアで世話してもらい、その収穫を利用者と一緒楽しんでいる。避難訓練は地域住民参加で行っており、災害時の連絡先に近所の方の電話番号が登録されるなど、地域に自然に溶け込んでいるのが素晴らしい。ケアプランは何度もアセスメントを繰り返し、家族を含む関係者の意見を聞いている。また、ひとときシートを使い利用者の思いを汲み取る努力をしており、利用者本位のきめ細やかなケアが実践されている。看護師が常駐しているのも強みであり、重度化した時の話し合いや看取り指針の作成など、体制が整っている。ホーム内には風通しがよく何でも言える雰囲気があり、また外部研修が勤務と認められるなど、職員を育てる取り組みもなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に共有して地域に溶け込み実践に繋げるよう日々努力している。	職員は理念をポケットに入れ、常に理念に立ち返るよう心がけている。毎日のケア会議で理念がケアに反映されているか話題にし、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が自主的にいろんなことに参加して下さるようになってきた。散歩中も声を掛けて頂くことが多い。	近所に毎日散歩や買い物に出掛けており、ホームの夏祭りの際は地域にチラシを配り多数の参加があった。地域の文化祭にも作品を作り参加している。近所の人々が畑ボランティアに来てくれるなど良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員、地域代表の方にいつでも相談に来て頂けるように伝えてあり、今年度も何件か相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の入居情報、事故報告、行事等報告して、助言やアドバイスをして頂いている。職員にも報告サービス向上に活かしている。	会議では、利用者の様子や事故の報告、意見交換がされている。地域代表の方からボランティアなどの紹介をしてもらったり、避難訓練に地域の人々が参加してくれるきっかけになったりと、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回役場に行き情報交換をしている。今回困難な事例があり、サービス担当者会議に主席して頂き、協力して頂きました。	毎月便りを持参し、また推進会議の日程調整や情報交換を行うなど連絡を密にしている。運営推進会議には市職員の出席があり、利用者について相談が出来る。職員研修の推薦を出してもらうなど協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が報告、回覧等で、全員に熟知させているが、事故防止の為、2階の階段に、夜間のみ施錠している。	高齢者虐待防止や身体拘束についての研修には毎年異なる職員が参加し、研修後のレポートやマニュアルで共有している。何が身体拘束にあたるか、拘束をしないためにどんな工夫をすればいいかを常に話題にし、利用者の思いに沿ったケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が報告、回覧等で、全員に熟知させている。職員が目につく箇所に気を付ける言葉など貼って虐待が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利保護推進養成研修に毎年一人ずつ参加し理解を深めている。利用者にも今年度1名利用者がみえ対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得頂けるまで、説明を行い、改定等は、家族会の時に説明してご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、施設長、管理者または外部機関に話せる事を伝え、契約書にも、外部機関連絡先が掲示してある。相談箱の設置もしてある。	家族の来訪時には利用者の状況を報告し、家族とコミュニケーションを取っている。出された要望等は利用者の希望を確認しながら、会議で話し合い対応している。玄関には意見箱設置や苦情窓口が掲示されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議、ミーティング等で意見を聞き、その意見を幹部会議で報告検討している。	管理者と職員の意思の疎通が取れており、意見が言いやすく、若い職員からの提案も多い。職員の意見や提案は、社長も含めての幹部会議で検討され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを申請し職員に、介護職員処遇改善交付金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問指導事業に申し込み、施設での研修をしている。他にも段階に応じて研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加している。同じ地区のグループホームの運営推進会議に参加したり来て頂いたり交流の機会をもっている。研修に参加した時他の施設と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に行き本人とゆっくり話し、アセスメントをしっかり取り不安なこと、求めていること等受け止め努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、契約のときに家族と話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し必要としている支援が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重し少しでも気持ちに添えるよう努力している。掃除、洗濯、炊事など出来る範囲で参加できない部分を職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会報にて1ヶ月の様子を知らせたり、行事参加や面会時に家族との良い関係を築いてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院など定期的に行っている。馴染みの方が見えた際本人の希望で面会して頂いている。	家族にお墓参りに連れて行ってもらったり、馴染みの美容院やスーパーに出かけるなどの支援をしている。友人の訪問の際は、居室で歓談してもらい、その時撮った写真を居室に飾っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、利用者同士が交流できる空間を作っている。利用者同士の性格をレクリエーション等で、見極め利用者の印象が良くなるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の受け入れが可能になり退去された方がその後状態が悪くなり相談を受け経済的な理由もあり入居が無理な為ショートステイの利用を援助したこともあり、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大切にして本人の希望に添えるようケアプランを立てて実行している。家族の協力が必要なときは話し合い協力を依頼している。ひもときシートを使い職員全体で考え検討する時間を作っている。	ほとんどの利用者とは話を通して意思疎通を図ることができる。また言葉で意思表示できない人について、或いは会話が出来る人であっても、一人ひとりの行動や表情を観察し、何をしたいかなど把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のときに、本人、家族からアセスメントを取り把握につめるほか、家族の面会時や本人との会話から情報集めケアに生かす取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ること、得意なことを見つけるように活動時に目を向けて観察して実行できる場所は、挑戦している。毎朝、健康チェックを行い、異常がある場合は看護師に連絡して主治医と連携を取り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認、月1回のモニタリングで現状把握、フロー会議でケース検討を行い意見を出し合っている。介護計画に盛り込んでいる。	ケアプラン作成後は、一ヶ月毎に全職員の意見を反映してモニタリングを行っている。その後、半年毎にケアチェック表を基にアセスメントし、家族に要望を聞き、プランの見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表、申し送りノート、業務日誌などで情報の共有を図りケアプランの作成見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、健康診断やその他本人と家族の状態、状況を把握して援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による活動、馴染みの店など地域の場所や人の力を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらい、協力医師の指示により、専門の医療が必要なときは協力医師より予約を取ってもらい専門の医療に受診している。	協力医以外のかかりつけ医の希望も受けている。その場合の受診は家族対応となっており、日頃の状態を文書にし家族に持参してもらったり、直接医師に電話で伝えている。受診後には報告があり、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護師であり、気軽に相談でき健康面も支援している。夜間も連絡体制が出来ており、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が病院と連携を取り情報交換や相談をして連携を取っている。退院のときは家族、医師、管理者、看護婦でカンファレンスを行い、退院後の対応など話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をこまめに家族に伝え、重度化したときの対応を少しずつ話しあっている。終末期については、家族、医師、管理者、看護婦などで話し合い出来る範囲で取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針は整備されており、契約時に家族に伝えている。さらに状態が変化した時には、今後の方針を医師を交えて家族と話し合い確認している。また看取りを行なう場合には職員とも検討し、方針を共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底している。定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム独自のマニュアルを作成それに基づき避難訓練を实地、マニュアルの見直しを行っている。消防署・地域住民も交え年2回避難訓練を实地している。	夜間想定避難訓練では、参加された地域の方に夜勤職員だけの全利用者避難に限界があることを理解してもらえた。災害時緊急連絡先に近所の方の電話番号を登録させてもらう了解を得、協力体制を築くことが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に話していることを頭においている。面会簿や個人情報の取り扱いには注意している。	職員は接遇についての外部研修に出かけ、受講後は会議等でその内容を伝え職員間で確認しあっている。また現場で利用者の誇りを損ねるような対応があった時には、会議で議題にあげ意識を徹底させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望で行動出来るように支援している。買物のとき野菜など選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の状態に合わせ、本人と相談しながら希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の着たい服を選んでもらい、入浴準備をしている。服の購入希望があれば一緒に買物に行き購入する。汚れ物を見つけたら、着替えて頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、盛り付けなど、出来ることは職員と一緒にこなしている。時々外食もして好きな物を選んで食べて頂いている。	献立は職員が順にたてており、利用者の好みを取り入れ栄養にも配慮している。食事は利用者、職員が同じものを一緒にとり、食べ方が偏らないよう、また水分をとるよう、職員は注意を払い声かけしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、個人によって、変更している、食事量は水分量、チェック表に記入して確認する。栄養バランスの取れていない方は看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	垂井町成人歯科検診をして頂き、歯の状態を職員が把握し毎食後の口腔ケアに行かしている。秋に8020運動の表彰を2名が受ける予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握、トイレ誘導を行う。なるべくおむつ利用を避けるように努力している。	できるところまでは自身で、できないところを見守りながらさり気なく援助している。利用者一人ひとりの状態に合わせてパットやはくパンツを使い分け、昼間は全員がトイレでの排泄となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分チェック表などを利用して便秘の原因を探し散歩、マッサージ、体操を取り入れ医師と相談しながら服薬などで調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回曜日は決まっている。時間は午前中に入ることが多いが希望によっては午後でもOKである。本人が希望すればいつでも入浴ができるように、対応している。	このホームでは日中の活動を楽しむため、週3回午前の早い時間に入浴することが多い。利用者の希望により夜の入浴も可能である。また入ることを拒む人には、言葉かけや対応を工夫し取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣にあわせて、ベット、畳などで対応している。Dルームの畳スペースをもう少し活用していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋をファイリング、職員が随時確認できるようになっている。重要な薬については詳細が把握できるよう別紙にファイリングしている。申し送りノートや業務日誌にて変更の旨を記入、職員全員把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法・フラワーアレンジメント・エステなど定期的に参加できるようにしたり、散歩や買い物、本人希望の手芸や塗り絵を常に用意しておくように心がけている、出来上がった作品を展示して皆さんに診て頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って、戸外に出かけているがなかなか希望が少ない。花が好きなので多く季節の花を見に行く機会を作っている。	天気の良い日は車椅子やシルバーカー使用の方も一緒に近所を散歩しており、喫茶店に立ち寄ることもある。食材の買い物は週3回、利用者と共に出かけている。また年に数回、日帰り旅行や花見に出向き、外食や個別の買い物を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設長が管理しているが、家族と相談して了承を得た方は、財布をもってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談して、都合の良い時間にかけて頂いている。手紙も出来るだけ書いて頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者全員で、掃除をする。玄関に季節の花を生ける。玄関・Dルーム・畳スペースを利用者がいつでも休めるように工夫してある。	ホーム内には利用者の作品が飾られ、心休まる空間を作っている。居間兼食堂では、ソファでゆったり身体を休める方、好きなテレビ番組を見る方、塗り絵を楽しむ方、気の合う人同士おしゃべりする方など、居室から出て思い思いに過ごせる共用空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳スペース(拡張)、踊り場など利用者同士お話ししたり、外を眺めたり自由に過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、仏壇、家具など自由に持ってきていただいている。	使っていたミシン、タンス、仏壇などが持ち込まれ、家族の写真やお気に入りの雑誌の切り抜きが飾られている。職員は利用者一人ひとりの状態や希望に合わせ、家族と共に居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識、入浴の使用札など、出来る限り工夫している。知能リハビリントを生かし分かる力を引き出している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム垂井だいわ福寿の杜 (第2ユニット)		
所在地	岐阜県不破郡垂井町栗原372-1		
自己評価作成日	平成23年9月22日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172400273&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頼町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ショートステイが、出来るようになり、入院時の時の、居室を利用することにより、利用者の負担も軽減出来ています。
 利用者が継続的に自分のやりたい事に取り組みめるよう、サポートしています。
 毎月の行事、音楽療法、フラワーアレンジ、ボランティア参加のレクリエーションが昨年度よりレベルアップしてより一層笑顔のある、楽しい、生活を送れる施設になっています。
 医療面では、岐阜県が取り組んでいる「岐阜県民歯、口腔の健康条例」にも賛同し、歯科医師の協力のもと、訪問歯科診療でブラッシングの施行及び、口腔内の異常の早期発見に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に共有して地域に溶け込み実践に繋げるよう日々努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が自主的にいろんなことに参加して下さるようになってきた。散歩中も声を掛けて頂くことが多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員、地域代表の方にいつでも相談に来て頂けるように伝えてあり、今年度も何件か相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の入居情報、事故報告、行事等報告して、助言やアドバイスをして頂いている。職員にも報告サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回役場に行き情報交換をしている。地域包括支援センター、社協		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が報告、回覧等で、全員に熟知させているが、事故防止の為、2階の階段に、夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が報告、回覧等で、全員に熟知させている。職員の目につく箇所に気を付ける言葉など貼って虐待が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利保護推進養成研修に毎年一人ずつ参加し理解を深めている。利用者にも今年度1名利用者がみえ対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、納得頂けるまで、説明を行い、改定等は、家族会の時に説明してご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、施設長、管理者または外部機関に話せる事を伝え、契約書にも、外部機関連絡先が掲示してある。相談箱の設置もしてある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議、ミーティング等で意見を聞き、その意見を幹部会議で報告検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを申請し職員に、介護職員処遇改善交付金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問指導事業に申し込み、施設での研修をしている。他にも段階に応じて研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加している。同じ地区のグループホームの運営推進会議に参加したり来て頂いたり交流の機会をもっている。研修に参加した時他の施設と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接に行き本人とゆっくり話し、アセスメントをしっかり取り不安なこと、求めていること等受け止め努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、契約のときに家族と話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し必要としている支援が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重し少しでも気持ちに添えるよう努力している。掃除、洗濯、炊事など出来る範囲で参加できない部分を職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会報にて1ヶ月の様子を知らせたり、行事参加や面会時に家族との良い関係を築いてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院など定期的に行っている。馴染みの方が見えた際本人の希望で面会して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流できる空間を作っている。レクリエーションを通じて、交流出来る時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の受け入れが可能になり退去された方がその後状態が悪くなり相談を受け経済的な理由もあり入居が無理な為ショートステイの利用を援助したこともあり、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを大切にして本人の希望に添えるようケアプランを立てて実行している。家族の協力が必要なときは話し合い協力を依頼している。ひもときシートを使い職員全体で考え検討する時間を作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のときに、本人、家族からアセスメントを取り把握につめるほか、家族の面会時や本人との会話から情報集めケアに生かす取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の出来ること、得意なことを見つけるように活動時に目を向けて観察して実行できる場所は、挑戦している。毎朝、健康チェックを行い、異常がある場合は看護師に連絡して主治医と連携を取り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認、月1回のモニタリングで現状把握、フロア会議でケース検討を行い意見を出し合っている。介護計画に盛り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表、申し送りノート、業務日誌などで情報の共有を図りケアプランの作成見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、健康診断やその他本人と家族の状態、状況を把握して援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による活動、馴染みの店など地域の場所や人の力を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらい、協力医師の指示により、専門の医療が必要なときは協力医師より予約を取ってもらい専門の医療に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護師であり、気軽に相談でき健康面も支援している。夜間も連絡体制が出来ており、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師が病院と連携を取り情報交換や相談をして連携を取っている。退院のときは家族、医師、管理者、看護婦でカンファレンスを行い、退院後の対応など話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をこまめに家族に伝え、重度化したときの対応を少しずつ話しあっている。終末期については、家族、医師、管理者、看護婦などで話し合い出来る範囲で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底している。定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム独自のマニュアルを作成それに基づき避難訓練を実地、マニュアルの見直しを行っている。消防署・地域住民も交え年2回避難訓練を実地している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方に話していることを頭においている。面会簿や個人情報の取り扱いには注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望で行動出来るように支援している。買物のとき野菜など選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の状態に合わせ、本人と相談しながら希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の購入希望があれば一緒に買物に行き購入する。汚れ物を、見つけたら、着替えて頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、盛り付けなど、出来ることは職員と一緒にこなしている。時々外食もして好きな物を選んで食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、個人によって、変更している、食事量は水分量、チェック表に記入して確認する。栄養バランスの取れていない方は看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	垂井町成人歯科検診をして頂き、歯の状態を職員が把握し毎食後の口腔ケアに行かしている。秋に8020運動の表彰を2名が受ける予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握、トイレ誘導を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分チェック表などを利用して便秘の原因を探し散歩、マッサージ、体操を取り入れ医師と相談しながら服薬などで調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回曜日は決まっている。時間は午前中に入ることが多いが希望によっては午後でもOKである。本人が希望すればいつでも入浴ができるように、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣にあわせて、ベット、畳などで対応している。Dルームの畳スペースをもう少し活用していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋をファイリング、職員が随時確認できるようになっている。重要な薬については詳細が把握できるよう別紙にファイリングしている。申し送りノートや業務日誌にて変更の旨を記入、職員全員把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法・フラワーアレンジメント・エステなど定期的に参加できるようにしたり、散歩や買い物、本人希望の手芸や塗り絵を常に用意しておくように心がけている、出来上がった作品を展示して皆さんに診て頂けるようにしている。。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿って、戸外に出かけているがなかなか希望が少ない。花が好きな方が多く季節の花を見に行く機会を作っている。他の施設に居る家族に会いに行く支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設長が管理しているが、家族と相談して了承を得た方は、財布をもってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談して、都合の良い時間にかけて頂いている。手紙も出来るだけ書いて頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者全員で、掃除をする。玄関に季節の花を生ける。玄関・Dルーム・畳スペースを利用者がいつでも休めるように工夫してある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、畳スペース(拡張)、踊り場など利用者同士お話ししたり、外を眺めたり自由に過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、仏壇、家具など自由に持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識、入浴の使用札など、出来る限り工夫している。知能リハプリントを生かし分かる力を引き出している。		